

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念はご利用者様がその人らしくいきいきと生活できる内容となっており玄関や事務所等、職員が常に見える場所に掲示している。職員一人ひとりが意識し実践に繋がっている。	開設時に理事長と管理者とで検討し、事業所独自の理念を作成しました。相談室や事務室など事業所内の目に付く所に掲示をする他、管理者会議時に目標を検討するなどして職員に理念を浸透させています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	牛乳、味噌、米は地元の方から購入している。また地元の床屋から来て頂き散髪を行っている。毎日、近所のスーパーに食材を注文し、配達してもらっている。コロナウイルス感染防止の為、ボランティアの受け入れは中止している。	事業所にも回覧版をまわしてもらったり、今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年では地域の祭りの際に神輿に寄ってもらったり、地域のボランティアの方にも来て頂くなど、地域との交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解や支援方法については積極的に話をする機会はないが見学に来られた方にはご自宅での様子を伺った上で助言できる範囲で話をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウイルス感染防止の為、書面にて開催している。委員の方へ資料と返信用封筒を郵送し意見等を頂いている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で書面送付としていますが、地域住民、市の担当者、他法人の特別養護老人ホーム施設長等からご意見を頂いています。委員へ事業所の状況報告を行い、頂いたご意見はしっかり受け止めて、サービスの向上に繋げるようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は市の担当者に運営推進会議の資料や議事録を提出したり、入退去状況の報告、事故報告などの連絡調整を行っている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただき、事業所の状況の報告を行うなどして、協力関係を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜20時から朝7時までとし、日中は施錠せず安全に配慮した上でお一人おひとりが自由に行動できるような環境作りに努めている。身体拘束に関しては施設内研修を行い職員間で周知している。また身体拘束廃止委員会を設け3か月に1回委員会を開催している。	法人にて身体拘束廃止委員会での検討や、身体拘束についての研修を行い周知徹底をしているほか、玄関の施錠も夜間のみとするなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を行い職員周知を行っている。日頃から入浴時などに身体チェックを行い職員の意識を高め防止に努めている。業務内でも職員同士で声を掛け合い虐待防止に努めている。	事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、職員の言葉遣い等も気になる点があれば職員同士で注意しあい、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は実施しておらず今後学ぶ機会を設け権利擁護に関して職員一人ひとりが理解を深め全職員で周知していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っており、一つひとつ丁寧に分かりやすい説明を心がけている。不安や疑問点があれば十分な説明を行い理解と納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来所時に職員の方から積極的にお話を伺っている。その都度、可能な限り意向に沿うように努めている。	ご家族の要望については運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議、ユニット会議を行い職員間の意見交換を行い日頃から何かあれば話し合いを行っている。その他、管理者はいつでも職員の意見を聞くよう努め、その意見が運営に反映できるよう理事長に伝えている。	毎月のユニット会議、リーダー会議にて職員との意見交換の場を設けているほか、日頃の業務の中でも意見や提案を確認するようにしており、その内容を運営に反映できるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人が習得している資格や職員個々の努力や実績、勤務状況を資格給に反映させており、個人に合わせた就業形態や、やりがいをもちながら働ける環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修委員が中心となり職員個々の経験や実績に基づき適切な研修に参加できるよう機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者と交流する機会は設けられていない。今後、サービスの質を向上させていく為に、同業者と交流する機会を作っていく。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接でご本人の生活状況を把握し、ご本人とご家族の希望を聞いている。自宅で過ごしていたような環境をグループホームで作れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や事前面接時にご家族が困っている事や不安、要望に耳を傾け良い関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や事前面接の際に、ご家族やケアマネージャーから話を伺いご本人とご家族にとってグループホームの入居が最適であるかを見極めご本人にとって最適なケアは何かを検討しサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとりの得意な事を把握し、毎日の掃除、洗濯物たたみ、野菜の下処理、趣味活動、茶碗洗いなど日々の生活の中で出来る作業をお手伝いして頂き必ずお礼をお伝えし支えあう関係作りに努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話での連絡、担当からのご家族へのお手紙等でご本人の様子を伝え、共有しご本人にとって必要なケアは何か、ご家族と一緒に考え共に支えていける関係づくりに努めている。	事業所広報を作成し送付しているほか、担当者が毎月お手紙を作成し送り、ご家族と情報を共有できるようにしています。また、面会時などは話を伺い、サービス担当者会議にはご家族にも参加していただけるようにし、協力関係を構築しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナウイルス感染防止の為、ご利用者の買い物、外出などを制限しているが、オンライン面会を行い馴染みの人や社会との関係が継続できるよう支援している。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、ご家族にも協力して頂きオンラインで面会したり、自宅に出かけるなど、馴染みの関係を継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を日頃の様子から観察し把握している。相性に配慮しトラブルや孤立が起こらないよう対応している。他者との交流が難しい場合は職員が共に過ごす時間を設け安心感をもって頂けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られる際は、これまでの生活状況、留意事項等の情報提供を行っている。サービス利用終了後も相談がある場合は支援協力をさせて頂く事をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを大切にしご利用者の思いや希望等の把握に努めている。ご自分から思いを伝える事が困難な方には表情や仕草から思いを汲み取ったりご家族様から意向を伺ったりしている。	日常のやりとりでご利用者から頂いた要望についてはできるだけすぐに対応するようにしています。また、日々の生活の中で確認したご利用者の意向や面会の際などにご家族から聞いたことは生活記録に記入し、職員間で情報を共有し、ご利用者の支援ができるようにしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接や入居時に、ご自宅や前施設での生活の様子を確認し、ご本人やご家族からこれまでの生活歴の聞き取りを行い把握するように努めている。	センター方式の書式を活用し、個々のご利用者のこれまでの暮らしの情報を整理しています。また、日々のやりとりの中で確認した新たな情報についても定期的に更新するようにしています。	事業所で使用している暮らしの情報シートが、調査時点で作成されていないご利用者もいましたので、全てのご利用者に対して作成されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤したらまず生活記録やバイタルチェック表、申し送りノートを確認し、生活の様子や心身状態の把握に努めている。状態変化見られた際は細かく記録に残しと共に口頭で申し送りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子を細かく記録に残し、その方がより良い暮らしをするには何が必要か考えている。ユニット介護でケアの方向性について検討を行い、ご家族の意向を踏まえ、ご本人らしい生活を送れるような介護計画を作成している。	サービス担当者会議の出席が困難なご家族へも、介護計画の立案に加わっていただくよう、来訪時に介護計画に関する意見や要望を伺うよう工夫されています。また、サービス担当者会議を開催し、見直しを行うのみならず、毎日の経過記録の記入による評価と毎月のモニタリングにより、状態やニーズと計画にギャップが生じる場合は即座に見直しが行われています。	調査時点で介護計画書の年号が違っていたり、モニタリングシートのチェック漏れ、モニタリングの評価基準が曖昧な方もいましたので、今後改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービスの実施状況や日々のご様子、職員の気付き等を毎日、生活記録に記入し職員間で共有している。生活記録をモニタリングに反映させ介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診はご家族にお願いしているが急変時やご家族の都合が合わない時は職員が代行している。リネンの洗濯や理髪店の利用も同様。ご家族が対応できない場合はホームで代行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、感染症対策の為、買い物、外食、ボランティアの来所等、外部との交流を制限しているが、少人数でのドライブにお連れし楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診して頂いている。必要に応じ、相談事等を手紙にしたがり場合によっては職員も同行し普段の様子をお伝えしている。	往診にも来て頂いているほか、ご本人、ご家族の希望する医療機関にて受診してもらい、必要時には事業所からの手紙を書き、付き添うご家族を介して医師との情報交換が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1回出勤している。ご利用者お一人おひとり体調や状態の変化など様々な事を相談している。夜間帯など出勤日以外でも看護師の指示を必要と感じた際、すぐに連絡をとり指示を仰げる体制になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は管理者(ケアマネ)や看護師が出向きホームでの様子を伝え情報提供している。入院中も病院関係者と連絡を取り合い情報を共有している。医師や看護師、ご家族様と相談し早期退院に向け連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべての事を十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、ホームでできるケアについてご家族に説明し同意を得ている。ご利用者の状態を見ながら必要時には話し合いの機会を設けご家族の意向を踏まえて必要なサービスが受けられるよう努めている。	契約時にグループホームとしてできることをご説明し、同意を得ており、医療的な支援が必要な場合は特養や病院に移っていただいています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による内部研修を行いご利用者様の急変時や事故発生時に備えている。AEDを設置してあり毎年、救急隊から使用方法と心肺蘇生の指導を受けているが、今年はコロナウイルス感染防止の為実施できていない。	急変時に適切な初期対応ができるよう、事業所でも緊急時対応の研修をしたり、職員に普通救命講習の受講を促しています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防立ち合いのもと、避難訓練を実施している。災害マニュアルや職員の連絡網を作成してある。災害時に備え非常食も備蓄している。地域の方からは参加して頂いていない。	事業所では日中の火災を想定した避難訓練を定期的に行っており、地域の方にも協力要請をしているほか、非常用の食品や水も確保されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの性格などを把握しその方に合わせた声のかけ方を行っている。排泄に関する話は他者の聞こえない場所へ移動し尊厳を損なわない職員同士お互いに注意しあっている。	契約時にプライバシーの取り組みに関する説明をし同意を頂いているほか、現場でご利用者に対する職員の言葉遣いにも気が付いたらすぐに指導するなどの対応も行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりがご自分の思いを表現しやすい雰囲気や環境作りに努めている。ご自分で表現できない方には表情や仕草などの様子から思いをくみ取り対応するよう心掛けている。状況に応じ選択肢を設け希望を伺うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活スタイルやこれまでの生活習慣を尊重し、起床、就寝時間を柔軟に対応できる限り、一人ひとりのペースで生活して頂くようにしている。行事への参加も無理強いする事なくご本人の希望に沿った対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類が取り出せるよう整理整頓させて頂いている。ご自分で身だしなみを整える事が難しい方は職員の方で季節に合った衣類で過ごせるようお手伝いさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた献立やホームの畑で職員と一緒に野菜の収穫を行い取ったものを食材として活用している。テーブル拭きや茶碗洗いなど、その方に応じたお手伝いをして頂いている。	食事の準備や後片付けも職員と出来る範囲でご利用者が共同で行われています。干し柿作りを一緒に楽しんだり、季節に合わせたメニューも提供し、ご利用者に食事を楽しんでいただけるように努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスや季節感を考えたものを提供している。食事量、水分量は個々にチェック表に記入している。水分摂取の少ない方には好まれる飲み物を提供している。また個別に食事形態を工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人おひとりに合った口腔ケアの援助を実施している。ご自分で出来ない方は職員が介助させて頂いている。義歯を使用している方には少なくとも週2回洗浄剤を使用し義歯消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い排泄パターンを把握し、適宜トイレ誘導を行い失敗が軽減できるよう支援を行っている。	排泄パターンの把握するまでは排泄チェックを行い、オムツの使用を減らせるような取り組みや、日中は出来る限り布パンツを使用させて頂くようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無や量を記録し職員間で情報を共有している。水分を提供したり毎日のテレビ体操に参加して頂いたり体を動かす機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はその日のご利用者様の体調やタイミングに配慮してお誘いしている。またご本人の希望に合わせてお誘いする順番も配慮している。ご本人の状態によっては職員2人体制で入浴のお手伝いをさせて頂いている。	入浴のスケジュールは作成するものの、気候やイベント、ご利用者の希望や気持ちに応じた柔軟な対応が図られています。また、入浴を嫌がる方への声かけの仕方やタイミングが職員間で共有されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思を尊重し、お休みにになりたいときや身体の状態に応じゆっくり休息して頂けるよう支援している。その際、精神的に安心して休息して頂けるよう居室内の灯り、温度等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や追加があれば、その都度職員間で把握し服薬の支援にあたっている。服薬後の体調の変化を見逃さず記録に残し、全職員へ共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴を把握し、その人が得意とする事等ご自分の能力を発揮して頂けるよう家事作業に参加して頂く機会を設けている。また歌や塗り絵などレクリエーション活動に参加して頂き気分転換して頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、外出が出来ない状況が続いていますが、少人数でのドライブに出掛け気分転換を図って頂いている。	天気の良い日は散歩をすることや、ドライブをするなど、可能な限り戸外に出られるよう支援されています。また、今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年では季節に応じたお花見、紅葉見学、いちご狩りなどの外出行事を企画し、ご利用者に外出を楽しんでもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお小遣いは事務所の金庫にてお預かりしている。購入希望の品物がある時は職員が代行し購入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された際は、職員がお繋ぎし、お話して頂き、ご家族からの電話の際も、本人に取り次いでいる。また携帯電話を持っている方もおり自由に電話できる環境にある。年賀状や手紙等が届いた時は本人に渡したり職員より読ませて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには太陽の光が入るような大きな窓があり壁には季節に合った装飾などで四季を感じて頂けるよう工夫している。ご利用者が心地よく過ごして頂けるよう室温や明るさ、音などを調整し配慮している。	廊下の数箇所にソファが配置され、休んだり集ったりすることができるよう配慮されています。また床暖房や加湿器による湿度対策も行われています。また、装飾は華美にならず、職員が知恵を出し合い適度にご利用者の作品や心を打つ良い言葉などが目線を配慮して飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングだけでなく廊下や畳スペースにもソファを設置しており、お一人で過ごして頂いたり気の合ったご利用者同士で思い思いに過ごして頂いている。ご利用者同士でトラブルに至る事もある為、場所や距離に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅から馴染みの家具などを持って来て頂きご自宅の部屋のように過ごして頂けるよう配慮している。配置については危険のないようご家族様と相談しながら行っている。	使い慣れたラジオなどの愛着のある品物を持ち込んでもらえるようお話しし、ご利用者が居心地良く、安心して過ごせる居室になるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間は全てバリアフリーで手すりも設置され扉は全て引き戸になっている。お一人でもホーム内を安全に歩行ができるようになっている。またトイレや居室の場所が分かるよう大きな字で案内を表示してある。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない